



### 高度急性期

- 三次医療機関としてさらに診療圏拡大したい
- 医療資源は豊富だ
- 平均在院日数短縮のため後方施設の確保、回転率の向上を図る必要がある
- 平均在院日数の短縮で今まで以上に実患者数を増やさなくてはならない



### 急性期

- 競争激化、需要減少などにより患者数が減少傾向にある
- 医療資源は不足傾向で、非効率的な医療資源の配置になっている
- 患者数の減少、医療資源の減少に歯止めをかけることが出来なければ、機能転換を行わなくてはならない



### 回復期

- (上記同様)患者数が減っている
- 院内転棟による患者確保ではなく、他医療機関からの転院患者の確保が求められる
- 在宅復帰率の維持が必要であるが、後方支援病院が確保できない



### 慢性期

- 小規模で特徴がない
- 医療資源は不足傾向。スタッフも高齢化が進んでいる
- 医療区分の低い患者は在宅につなげていく必要があるが、後方施設がない